

今後の街路樹・公園樹の維持管理について

1 街路樹・公園樹を取り巻く状況

本市におけるこれまでの経過

昭和30（1955）年～昭和40（1965）年代

都市環境の悪化を背景に「緑化百年宣言」を行い、緑の基盤整備と緑の量的拡大を推進

- 道路や公園の限られたスペースに、成長の早い樹木を、狭い植栽間隔で、多数植栽

昭和50（1975）年代

グリーンアップ計画の策定を機に都市景観に配慮した質の向上と緑の量的拡大を推進

- 視野内緑量や緑被率の考え方が導入され、上から見た緑量だけでなく、視界に入る緑の量を増やすことを推進 ⇒中央分離帯や街園、川沿いの道路や公園に高木を密に植栽

昭和60（1985）年代

花の万博の開催に向けて、緑化の質が多様に

- 花の万博の精神を今後のまちづくりに活かすため、花と緑あふれるうるおいあふれるまちづくりを推進 ⇒生活道路など市民生活に密着した道路において花木通り（コブシ、ハナミズキなど）を整備
⇒こどもたちに緑豊かな自然に接してもらうためドングリ広場を整備

平成10（1998）年代

花の万博の開催後は、住民の生活行動に着目し、快適性などに配慮した総合的な緑化の推進

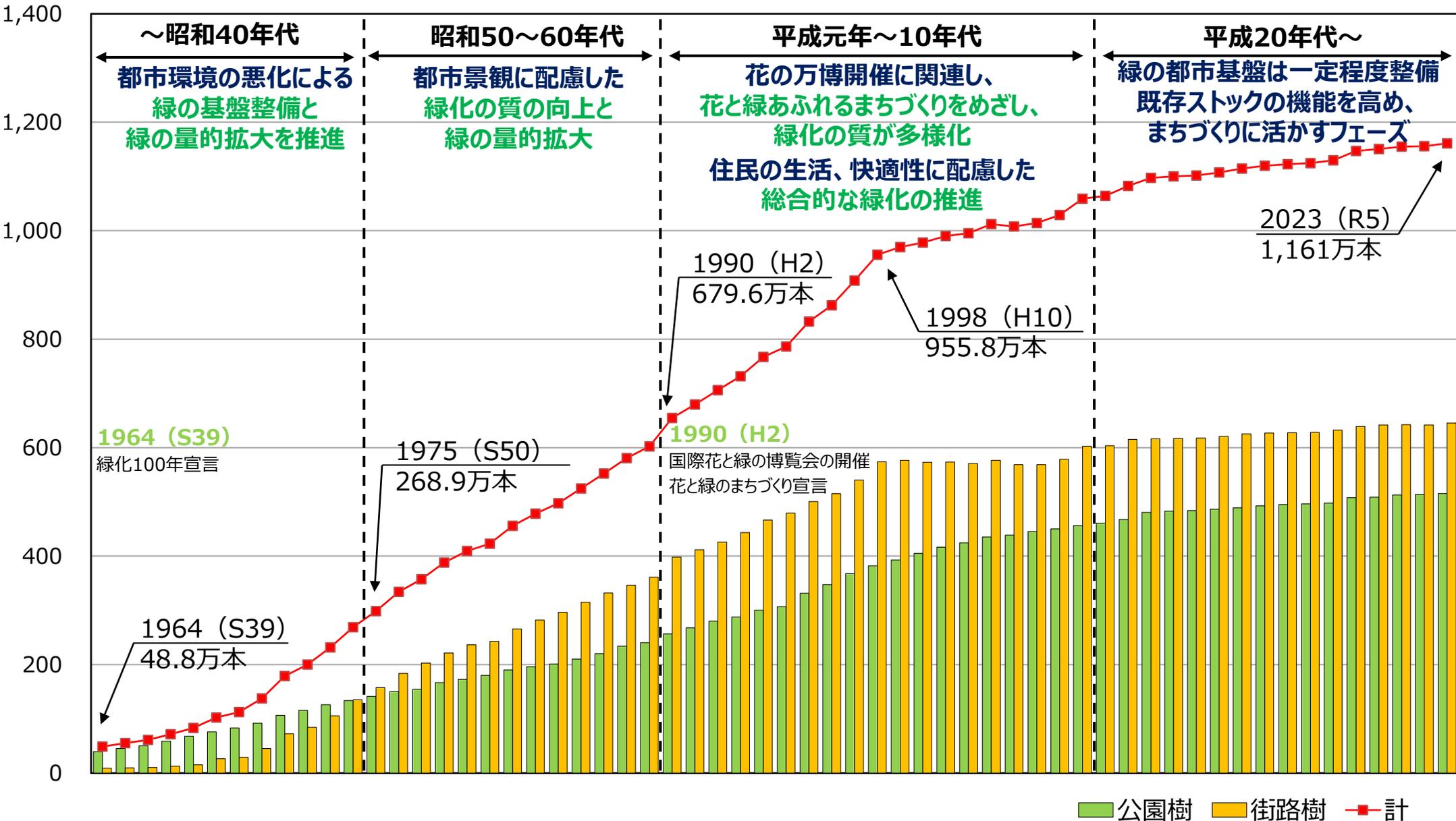
- アメニティ豊かな空間づくりのため、市域の中に緑の骨格づくりを推進
⇒幹線道路における常緑樹の植栽
- 目に見え肌で実感できる身近な緑の増加 ⇒身近な公園における外周緑化の推進

1 街路樹・公園樹を取り巻く状況

樹木本数の推移

(本数：万本)

※各年度末時点の高木・中低木の累計を示す



1 街路樹・公園樹を取り巻く状況

街路樹の樹種トップ5

年	1位	2位	3位	4位	5位
昭和36 (1961) 年※	ポプラ	プラタナス	アオギリ	シダレヤナギ	イチョウ
昭和42 (1967) 年※	ポプラ	シダレヤナギ	アオギリ	プラタナス	イチョウ
昭和56 (1981) 年※	トウカエデ	イチョウ	プラタナス	ポプラ	シダレヤナギ
平成15 (2003) 年	シラカシ	トウカエデ	イチョウ	ヤマモモ	クスノキ
平成28 (2016) 年	シラカシ	イチョウ	トウカエデ	ヤマモモ	クスノキ

過酷な環境化にも対応できる、成長が早く丈夫な樹種が選ばれた

- ・大阪で生育が良好な樹種が増える
- ・紅葉など季節感を創出する落葉樹が多い傾向

台風や虫に弱い、寿命が短い樹種は減少

早期緑化樹は減少傾向、常緑樹が増加

平成15年度に比べ全体の傾向は大きな変化なし

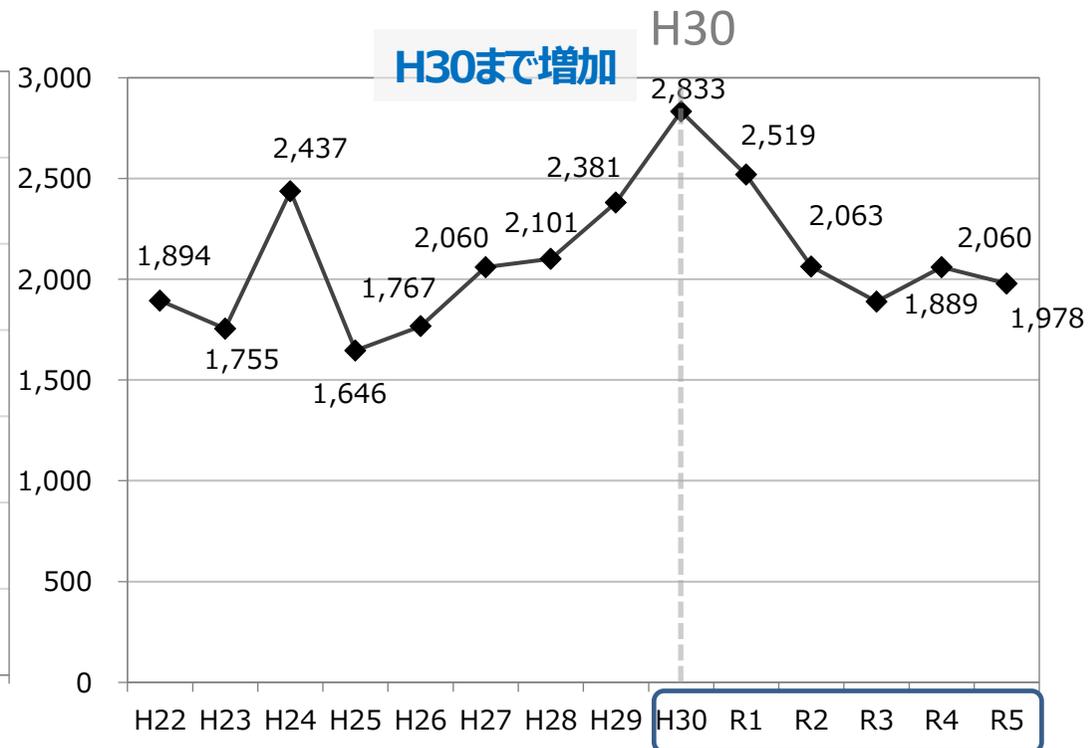
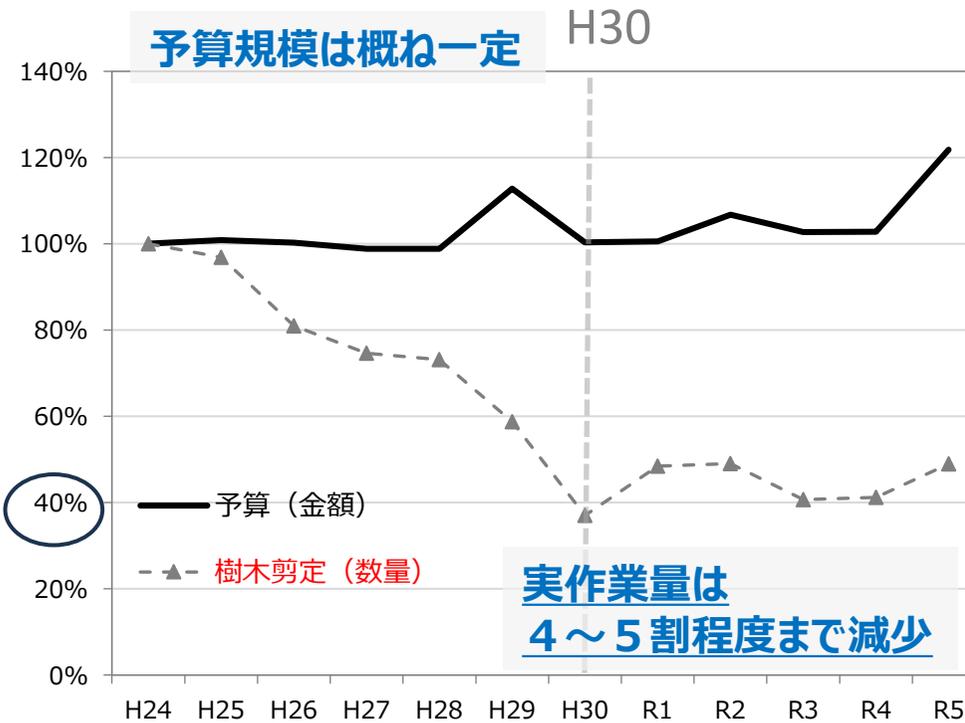
※出典：大阪市公園局業務論文報告集（1984）

街路樹・公園樹は、時代のニーズに応じた政策・施策により、量的拡大や質的向上を進めてきた

1 街路樹・公園樹を取り巻く状況

予算・要望件数等の推移

- ~H30年度 年月の経過により、樹木の**大木化・老木化の進行**
近年の物価高騰等による剪定頻度の低下に伴う、**樹木剪定の要望件数増加**
- H30年以降 **安全対策事業**による要望件数の減少



H24を100としたときの街路樹・公園樹の**予算規模と実作業量の推移**※

※通常の維持管理予算を抽出

街路樹・公園樹の**要望件数の推移**※

※R4年度は集計方法の精査の結果、部会資料から修正

1 街路樹・公園樹を取り巻く状況

課題

① 事故リスク等の増大

- ✓ 大木化 ⇒ 標識等の視認障害、根上がりによる舗装等の施設損壊・通行支障が発生
- ✓ 老木化 ⇒ 樹木の健全性低下による倒木、幹折れ被害が発生

② 景観の悪化



枝が歩道へ張り出し、標識を隠している



平成30年台風時の倒木（上）



根上がりで舗装が浮いている



平成30年台風時の枝折れ（下）



狭い空間に過密に植栽したことによる景観の悪化

1 街路樹・公園樹を取り巻く状況

街路樹が抱える課題

配置

狭い歩道での植栽による

- ・ 通行支障
- ・ 電線等架空線との競合



植栽間隔が狭く強剪定することによる

- ・ 健全性の低下
- ・ 景観の悪化



樹木規格、樹種

成長の早い樹木の植栽による

- ・ 交通標識等の視距阻害
- ・ 車道等の建築限界支障による通行阻害



1 街路樹・公園樹を取り巻く状況

公園樹が抱える課題

配置

- 公園周辺を中心とした過密な植栽による
- ・ 道路等隣接地への枝葉の越境
 - ・ 強剪定による健全性の低下、景観の悪化



樹種

- 成長の早い樹木の植栽による
- ・ 台風時の倒木発生



- ・ 大木化しやすい樹種を主に採用してきたなど、樹木特性への配慮が必要

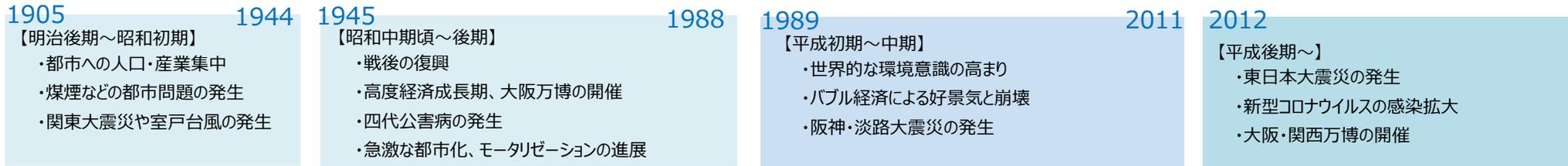


1 街路樹・公園樹を取り巻く状況（社会情勢の変化からみた樹木管理の課題）

社会背景

樹木に関連する国の主な政策、法律制度

本市におけるみどりのまちづくり



法に基づく都市インフラ整備の始まり

緑豊かな都市環境の整備

ゆとりと潤いのある緑豊かな生活環境の形成

安全安心できるくらしの実現

地球環境に配慮した持続可能な社会の形成

良好な景観の形成

社会資本の一斉老朽化

道路構造令の変遷 ※関係するもののみ抽出

1919 道路構造令・街路構造令の制定

1958 道路構造令の改正

1982 道路構造令の改正

1993 道路構造令の改正

2001 道路構造令の改正

都市公園数
街路樹本数
(各年4月時点)

1928

総合大阪都市計画で公園が初めて都市計画決定項目の重要な一部門として位置づけ

288公園
8.1万本

急速な量的拡大

都市環境の悪化を背景に緑の基盤整備と緑の量的拡大を推進

1964 緑化100年宣言

都市景観に配慮した質の向上と緑の量的拡大を推進

1975 グリーンアップ計画

1977 第1次植樹五箇年計画

1982 第2次植樹五箇年計画

828公園
411.7万本

量的拡大の継続

983公園
620.5万本

都市全体として「成長」から「成熟」のフェーズへ

996公園※1
641.9万本※2

※1：R6（2024）時点
 ※2：R5（2023）時点

花の万博の開催に向けて緑化の質が多様に

1990 国際花と緑の博覧会の開催、花と緑のまちづくり宣言

快適性などに配慮した総合的な緑化の推進

2000 大阪市緑の基本計画の策定

2013 新・大阪市緑の基本計画の策定

- 街路樹・公園樹は、時代のニーズに応じた政策・施策により、量的拡大や質的向上を進めてきた。
- 一方、社会情勢の変化により求められるものが多様化する中で、植栽空間は限られ、厳しい環境となってきた。

1 街路樹・公園樹を取り巻く状況（社会情勢の変化からみた樹木管理の課題）

課題を受けた現在の取組み

安全対策事業

- 倒木など市民生活に影響を及ぼすおそれのある樹木の撤去・更新を集中的に実施し、令和6年度で一定解消



万博関連事業

- 万博開催にあたって主要なアクセスルートなどで、道路の美観向上に資する街路樹の細やかな剪定など、「健全な樹木の保全育成」に向けた維持管理を先行的に実施



2 街路樹・公園樹マネジメント戦略の基本的な考え方（素案）

街路樹・公園樹

都市の景観・快適性向上や環境保全に
貢献するなど、都市の価値を高め、市民生活を支える重要な都市インフラ

基本的な方向性

- 都市インフラとして健全な樹木の保全育成を目指す
- 定期的な点検による蓄積データに基づき適時適切な剪定を実施するなど、樹木管理のDXを強力に進めながら、中長期的な視点で樹木の生育環境に応じた計画的な保全育成に取り組む
- 市民・事業者等と情報共有しながら連携するなど、樹木を共に育てるしくみづくりに取り組む

樹木の管理目標

市民生活を支える都市インフラとして安全性を確保しつつ、樹木のもつ機能・効用を最大限に発揮できるよう、道路、公園など植栽環境に応じた健全で活力ある樹木を保全育成

樹木管理の基本方針

基本方針① 樹木の計画的な更新及び樹木更新にあわせた配置の適正化

基本方針② 健全な樹木の保全育成をめざした樹形及び樹木管理の考え方を設定

基本方針③ 着実なPDCAによる持続的な維持管理（樹木管理のDX）

基本方針④ 樹木の保全育成における多様な主体との連携と情報発信（樹木管理のDX）

2 街路樹・公園樹マネジメント戦略の基本的な考え方（素案）

基本方針① 樹木の計画的な更新及び樹木更新にあわせた配置の適正化

街路樹

- ✓ 今後、樹木の成長とともに根上がりなどの通行障害や交差点や標識を遮る視認障害・視距阻害など、安全な道路に支障を及ぼしている状況が起こらないよう、道路の特性に応じた将来の目標樹形・目標樹高を踏まえた**樹木配置や樹種選定の考え方を定める**とともに、将来を見据えて**計画的に樹木の更新**を進めていきます。
- ✓ また、新たに植栽する際には樹木が健全に生育するための植栽基盤を確保します。

(1) 道路分類毎の街路樹整備や管理の基本的な考え方

街路樹の整備や管理にあたっては、道路空間や周辺地域の価値向上に資するよう、道路特性に応じた道路緑化を定める必要がある。

- ①高規格道路、②主要な道路、③住居地域の幹線道路、④商業地域の道路、⑤工業地域の道路、⑥狭小な一般道路



主要な道路のイメージ



住居地域の幹線道路イメージ

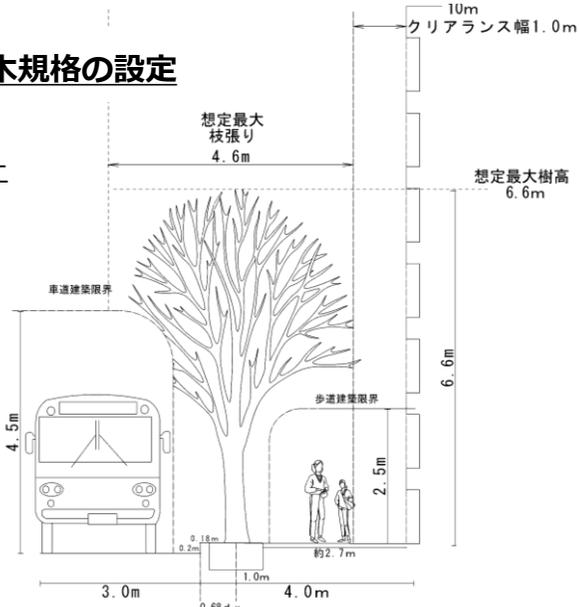
2 街路樹・公園樹マネジメント戦略の基本的な考え方（素案）

基本方針① 樹木の計画的な更新及び樹木更新にあわせた配置の適正化

街路樹

(2) 道路空間や周辺環境に応じた樹木整備基準の設定

①植栽間隔の見直し、②見通しの確保、③歩道幅員の確保、④道路空間や周辺環境にあわせた樹種の見直し

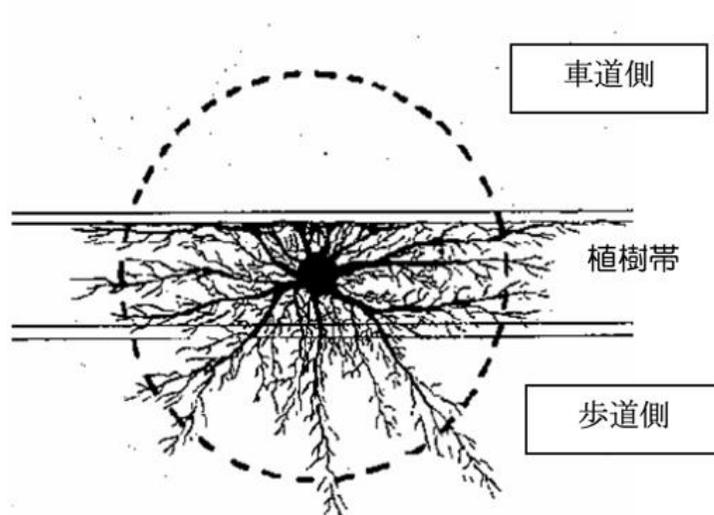
配置	樹木規格、樹種
<p>【歩道幅員タイプ別の植栽構成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 狭幅員タイプ（2.5m未満）：低木を標準 ● 中間幅員①タイプ（2.5m以上3.5m未満）：中木及び小高木を標準 ● 中間幅員②タイプ～広幅員タイプ（3.5m以上）：高木を標準 <p>【植栽配置】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 植栽間隔は10m以上を標準 ※工場地域の道路では、住居地 域に対して植栽間隔を広げるなど、周辺環境に応じて設定 ● 交差点や横断歩道付近等に植栽する場合は、視距の確保に留意 	<p>●植栽環境に応じた樹種選定</p> <p>将来的にめざす樹木の大きさ（目標樹形・目標樹高）を見越した上で…</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 気象条件や土壌条件に適合した樹種選定 ※環境条件に適応し健全に育成させるため、可能な限り気候風土に適応した在来種を採用 ✓ 歩道幅員、建築限界、周辺施設等の道路空間や周辺環境上の生育の制約を考慮した樹種選定
 <p>▲植栽間隔の設定イメージ</p>	<p>●植栽環境に適した樹木規格の設定</p> <p>中間幅員② 3.5m以上 ケヤキの事例</p> 

（3）樹木の計画的な更新

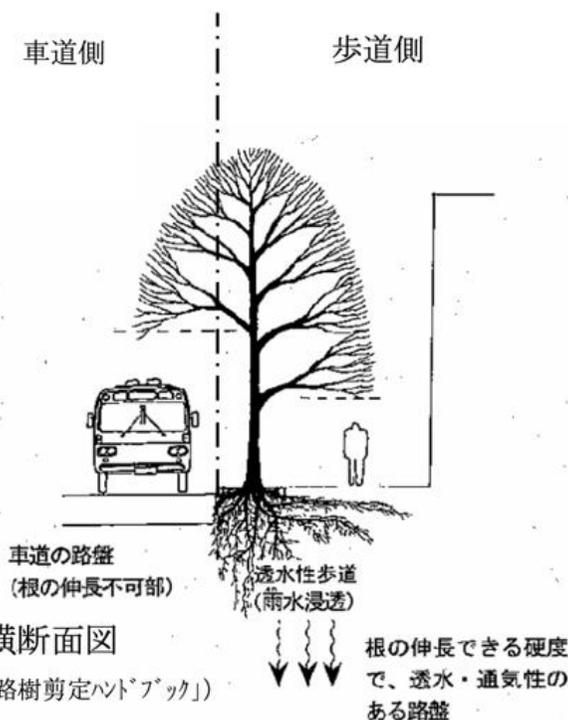
- 強剪定しなければ、道路区域内での目標樹形の維持が困難となった場合、樹木を更新
- 更新するにあたっては、大木化・老木化する前に樹木の成長にあわせて計画的に樹木更新を実施

（4）樹木の成長に配慮した植栽基盤の確保

- 新植時の土壌改良や有効土層の確保、根上がり対策



■ 図-1：平面図



■ 図-2：横断面図

(出典：「街路樹剪定ハンドブック」)

2 街路樹・公園樹マネジメント戦略の基本的な考え方（素案）

基本方針① 樹木の計画的な更新及び樹木更新にあわせた配置の適正化

公園樹

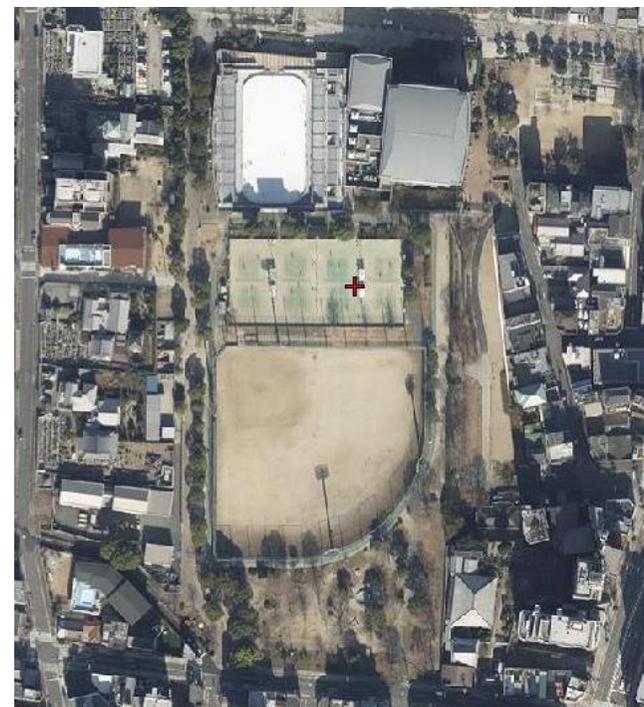
- ✓ 今後、樹木の成長とともに民有地への越境や公園施設の損壊など、公園内外の安全に支障をきたすおそれがあるなど同様の問題が起こらないよう、樹木配置や樹種選定の考え方を定めるとともに、将来を見据えて計画的に樹木の更新を進めていきます。

(1) 空間特性別の公園樹整備の基本的な考え方

公園樹木の植栽目的は、公園の規模が大きいものほど多様化し、よりきめ細かな樹木管理を行うことが求められます。個々の樹木の植栽目的は千差万別であることから、公園別・樹木別に植栽目的に応じたきめ細かな樹木管理を行います。

(植栽例)

- 出入口からのアイストップとなるシンボルツリー
- 駐車場と園路を分離し、公園利用の安全性を高める植栽
- 憩い・散策の空間をつくる内部植栽
- 緑陰のある遊びの場をつくる内部植栽
- 道路との景観調和を図る並木植栽
- エントランス周りの景観調和を図る植栽
- 修景や緑陰を高めるエントランスを印象付ける内部植栽
- 建物広場周りの植栽



2 街路樹・公園樹マネジメント戦略の基本的な考え方（素案）

基本方針① 樹木の計画的な更新及び樹木更新にあわせた配置の適正化

公園樹

(1) 空間特性ごとの公園樹整備や管理の基本的な考え方

前述のとおり公園の規模が大きくなればなるほど植栽目的も多様ですが、空間特性ごとに植栽目的に応じた制約条件や課題を整理すると、大きく外周植栽（道路側・民地側）と一般園地（遊び場・広場、園路・通路沿い等）の2つに分けられます。



枝葉の繁茂により外部からの見通しを阻害



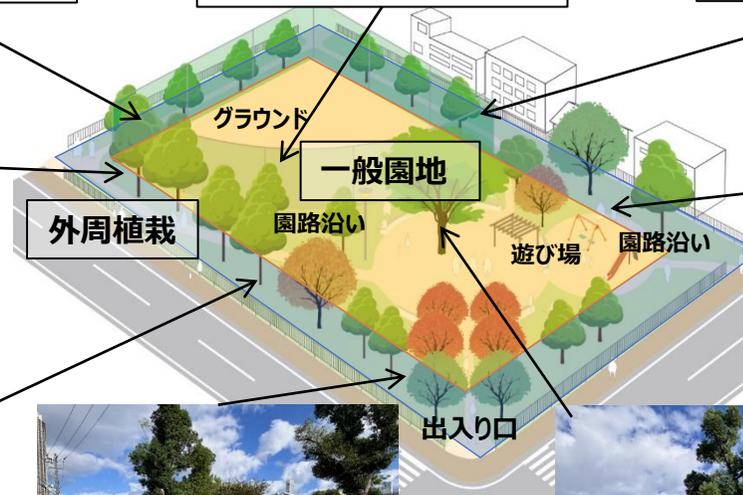
遊具や園路との干渉により、正常な施設利用環境阻害する樹木



住宅や事業所への越境枝や落葉が見られる樹木を強めに剪定



建築限界の違反や架空線との干渉が見られるため樹木を強めに剪定



強めに剪定し緑陰が少ない園路沿いの樹木



枯れ枝、病害虫など異常のある樹木



公園の顔となる場所にも関わらず樹形が崩れている樹木



強めに剪定し樹形が崩れているシンボルツリー



丁寧な剪定により美しい樹形を維持している事例

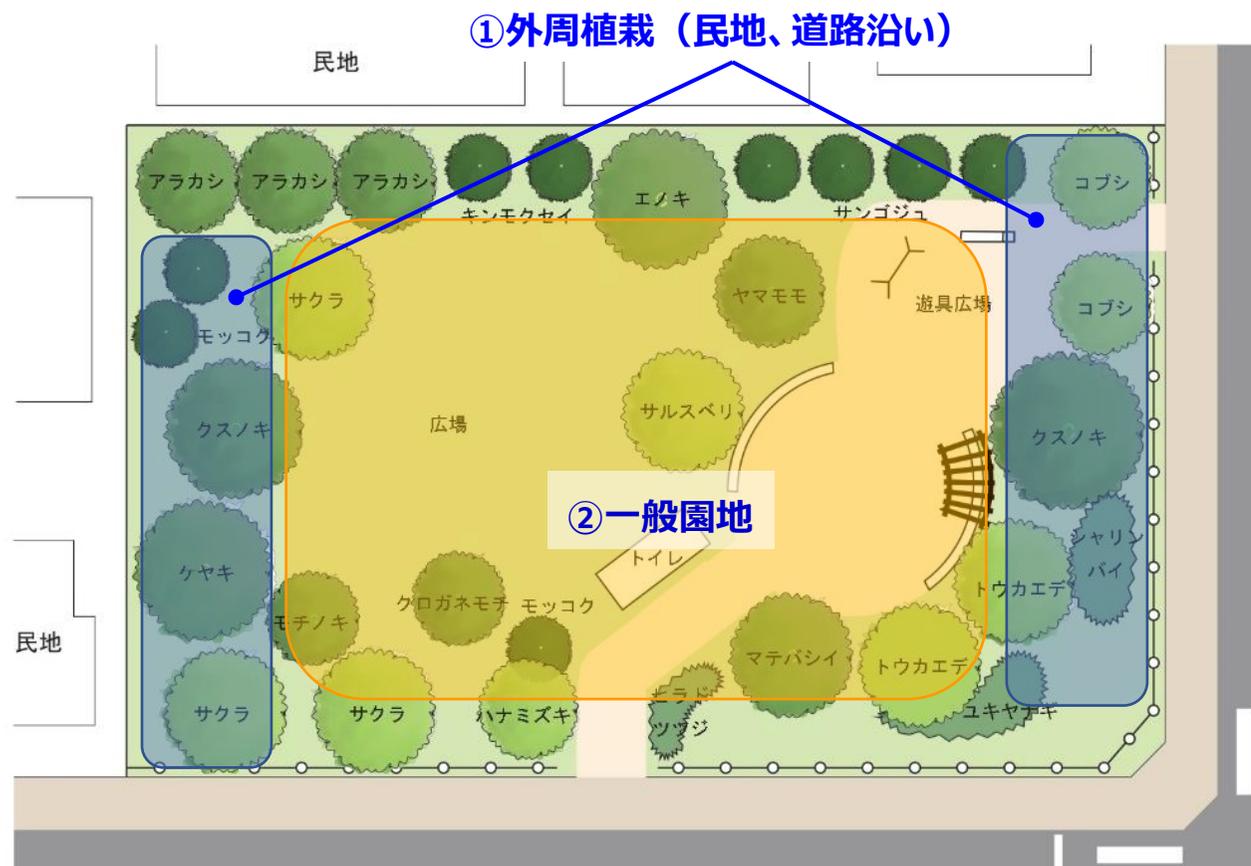
2 街路樹・公園樹マネジメント戦略の基本的な考え方（素案）

基本方針① 樹木の計画的な更新及び樹木更新にあわせた配置の適正化

公園樹

（1）空間特性ごとの公園樹整備や管理の基本的な考え方

今後は、2つの植栽場所を考慮した植栽の配置基準や管理水準を定め、利用者や公園周辺の安全確保を第一に、園内の快適な環境確保や園内外の良好な景観形成に向けて、樹木の健全な保全育成に努めます。



植栽箇所別 2区分イメージ図

（2）計画的な更新

植栽環境を踏まえた樹木の成長状況と健全度の観点から計画的に更新

2 街路樹・公園樹マネジメント戦略の基本的な考え方（素案）

基本方針① 樹木の計画的な更新及び樹木更新にあわせた配置の適正化

公園樹

(3) 公園の空間構成や周辺環境に応じた樹木整備基準の設定

①樹木の植栽間隔の見直し、②見通しの確保、③公園空間や植栽空間にあわせて樹種の見直し

配置	樹種																										
<p>●道路境界との離隔を設定</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>樹種</th> <th>道路境界からの距離</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>広葉樹高木類</td> <td>最低3.0m離す</td> </tr> <tr> <td>針葉樹、中低木類</td> <td>将来的な樹冠の大きさの1/2を最低値とし境界から離す</td> </tr> </tbody> </table>	樹種	道路境界からの距離	広葉樹高木類	最低3.0m離す	針葉樹、中低木類	将来的な樹冠の大きさの1/2を最低値とし境界から離す	<p>●樹種選定の考え方の設定</p> <p>将来的にめざす樹木の大きさ（目標樹形・目標樹高）を見越した上で…</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓気象条件や土壌条件に適合した樹種選定 <ul style="list-style-type: none"> ※環境条件に適応し健全に育成させるため、可能な限り気候風土に適応した在来種を採用 ✓公園内の植栽場所や周辺環境に適合した樹種選定 ✓公園種別や空間特性等、公園毎の機能・役割を考慮した樹種選定 <p>《樹種選定の考え方》</p>																				
樹種	道路境界からの距離																										
広葉樹高木類	最低3.0m離す																										
針葉樹、中低木類	将来的な樹冠の大きさの1/2を最低値とし境界から離す																										
<p>●配植の間隔を設定</p> <p>配植間隔のイメージ図</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">1. 形態別</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>(ア) 樹形</td> <td>(イ) 花木・果実木</td> </tr> <tr> <td>(ウ) 紅葉・黄葉</td> <td></td> </tr> </tbody> <thead> <tr> <th colspan="2">2. 環境条件別</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>(ア) 荒地・乾燥地</td> <td>(イ) 地下水位の高い所</td> </tr> <tr> <td>(ウ) 強風地</td> <td>(エ) 潮風地</td> </tr> <tr> <td>(オ) 日陰地</td> <td>(カ) 生物誘致</td> </tr> <tr> <td>(キ) 果実栽培への悪影響</td> <td>(ク) 外来種による悪影響</td> </tr> </tbody> <thead> <tr> <th colspan="2">3. 機能別</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>(ア) 防火力の高い樹木</td> <td>(イ) 環境保全機能の高い樹木</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">代表的な樹種</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>球形</td> <td> <p>その他の樹種 ・アラカシ ・シラカシ等</p> </td> </tr> <tr> <td>逆円錐形</td> <td> <p>その他の樹種 ・ナンキンハゼ ・ソメイヨシノ等</p> </td> </tr> </tbody> </table>	1. 形態別		(ア) 樹形	(イ) 花木・果実木	(ウ) 紅葉・黄葉		2. 環境条件別		(ア) 荒地・乾燥地	(イ) 地下水位の高い所	(ウ) 強風地	(エ) 潮風地	(オ) 日陰地	(カ) 生物誘致	(キ) 果実栽培への悪影響	(ク) 外来種による悪影響	3. 機能別		(ア) 防火力の高い樹木	(イ) 環境保全機能の高い樹木	代表的な樹種		球形	<p>その他の樹種 ・アラカシ ・シラカシ等</p>	逆円錐形	<p>その他の樹種 ・ナンキンハゼ ・ソメイヨシノ等</p>
1. 形態別																											
(ア) 樹形	(イ) 花木・果実木																										
(ウ) 紅葉・黄葉																											
2. 環境条件別																											
(ア) 荒地・乾燥地	(イ) 地下水位の高い所																										
(ウ) 強風地	(エ) 潮風地																										
(オ) 日陰地	(カ) 生物誘致																										
(キ) 果実栽培への悪影響	(ク) 外来種による悪影響																										
3. 機能別																											
(ア) 防火力の高い樹木	(イ) 環境保全機能の高い樹木																										
代表的な樹種																											
球形	<p>その他の樹種 ・アラカシ ・シラカシ等</p>																										
逆円錐形	<p>その他の樹種 ・ナンキンハゼ ・ソメイヨシノ等</p>																										

2 街路樹・公園樹マネジメント戦略の基本的な考え方（素案）

基本方針② 健全な樹木の保全育成をめざした樹形及び樹木管理の考え方を設定

街路樹

- ✓ 樹形を適正に保持することは、個々の樹木の健全性や美観を維持するだけでなく、周辺環境やまちなみとの調和のとれた景観の形成にも寄与します。**道路の空間特性や樹種に応じた目標樹形・目標樹高を設定し、これに基づく剪定管理を行うことで樹形を適正化します。**

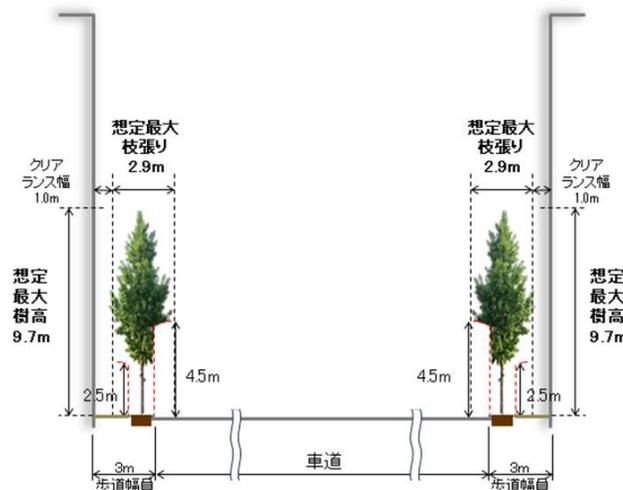
(1) 道路空間や周辺環境に応じた目標樹形の設定

- **道路という制約ある空間**において、**自然樹形を考慮した樹形バランスを保つ**よう歩道幅員・樹種別で**目標管理樹形**を設定

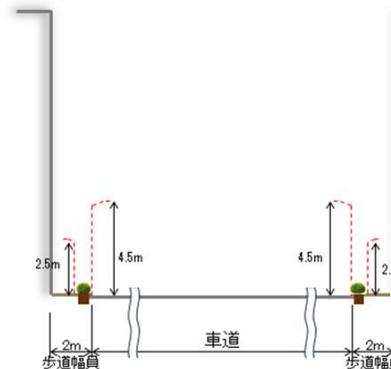
歩道タイプ別の目標樹形（例）

歩道幅員タイプ	歩道幅員	目標枝張り	目標樹高
中間幅員①タイプ	3.0m	2.9m	9.7m
中間幅員②タイプ	4.0m	4.6m	15.5m

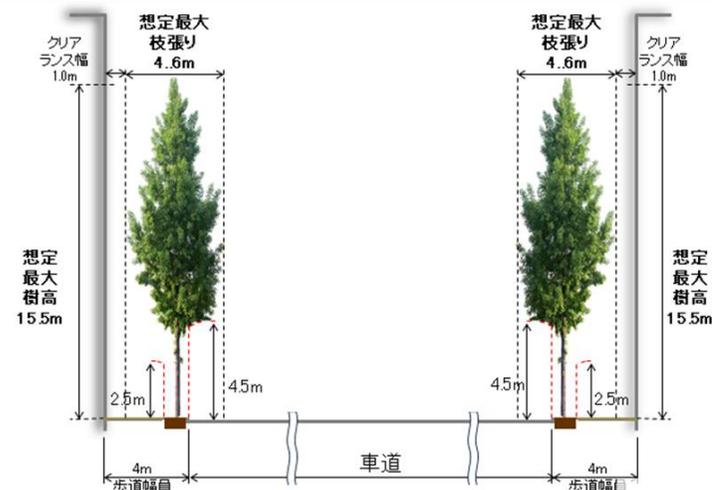
中間幅員 ①タイプ（2.5m以上3.5m未満）



狭幅員タイプ（2.5m未満）



中間幅員 ②タイプ（3.5m以上5.5m未満）



歩道幅員タイプ別の目標管理樹形 模式イメージ図

2 街路樹・公園樹マネジメント戦略の基本的な考え方（素案）

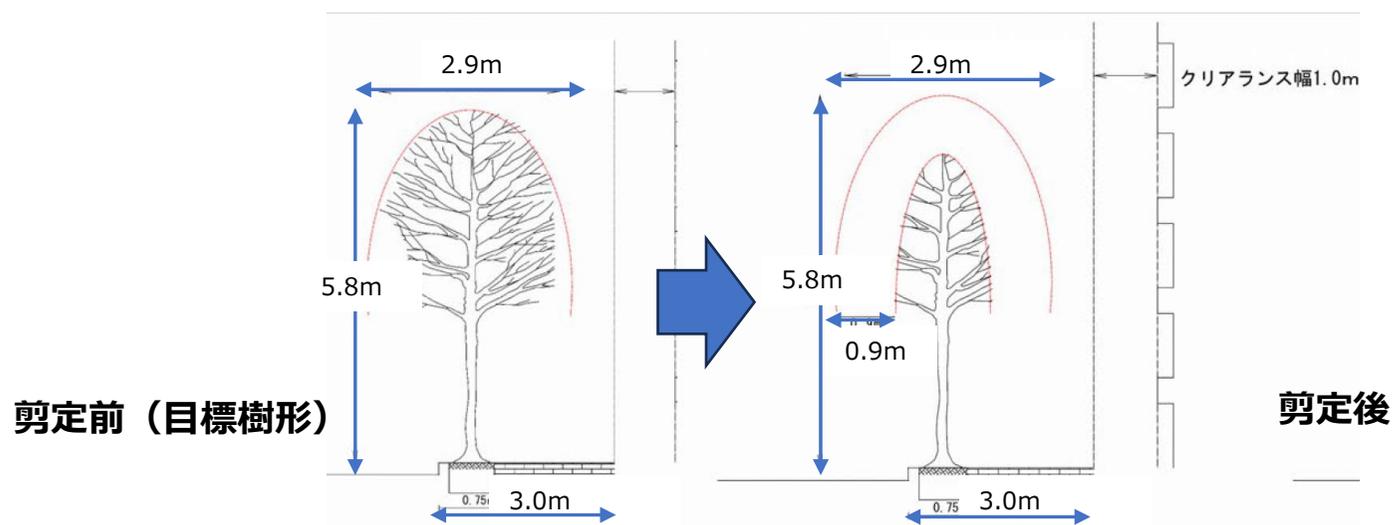
基本方針② 健全な樹木の保全育成をめざした樹形及び樹木管理の考え方を設定

街路樹

- ✓ 樹形の適正化にあたっては、市域全域で数年に1回の骨格剪定を実施することで、市域全域の街路樹を健全に育成します。

(2) 樹木管理の考え方

- 樹木毎の成長量に応じ、剪定による樹形管理の実施



■ 目標樹形と剪定頻度の設定例 ※シラカシの事例

歩道幅員 : 3m

目標樹形 : 高さ5.8m・枝張り2.9m

枝先成長量 : 0.3m/年（3年間で0.9m成長）

道路内で目標樹形におさめるため、1回/3年の骨格剪定が必要

- 本市の道路幅員や樹種の特長（成長速度）を踏まえ、骨格剪定の頻度の考え方を整理

2 街路樹・公園樹マネジメント戦略の基本的な考え方（素案）

基本方針② 健全な樹木の保全育成をめざした樹形及び樹木管理の考え方を設定

街路樹

- ✓ 限られた空間の中で樹冠を大きくするには、健全性、見通しを確保するため、**骨格剪定**に加え、**不要枝剪定**が必要。
- ✓ 本市施策として、**景観の配慮や緑の増加が求められているエリア**では、**丁寧な剪定**により緑の機能を発揮できるよう樹形形成に取り組む。

(2) 樹木管理の考え方

剪定手法や剪定頻度を見直すことで、樹木の持つ機能・効用を最大限に発揮させる



《剪定のイメージ》

① 骨格剪定

- 樹木の大きさをコントロールする剪定で、道路などの限られた空間内で樹形をつることが可能
- 樹勢を弱らせる強剪定によらない、樹木の健全な育成に寄与



枝の伸長や、植栽環境に応じて、適切な頻度で定期的な剪定を実施

② 不要枝剪定

- 通行支障枝や、樹木の生育上不要な枝を細やかに剪定
- 健全な樹木の育成に加え、見通しの確保や景観・快適性の向上に寄与



景観向上や緑陰形成をめざし、骨格剪定に加え、内部の枝葉を透かす不要枝剪定を実施

2 街路樹・公園樹マネジメント戦略の基本的な考え方（素案）

基本方針② 健全な樹木の保全育成をめざした樹形及び樹木管理の考え方を設定

街路樹

(2) 樹木管理の考え方

緑の基本計画の基本理念や将来像を踏まえ、

大阪を訪れる人が魅力を感じる都市景観を形成していく

- 多くの人を訪れる、都心及び集客拠点の幹線道路で街路樹を大きく育て美しい景観を形成
- 働く人、訪れる人が魅力を感じるまちなみを形成

(参考) 上記に関連する他計画等での路線の位置づけ

✓本市景観計画で定める重点届出区域

✓緑の基本計画で定める緑化重点地区

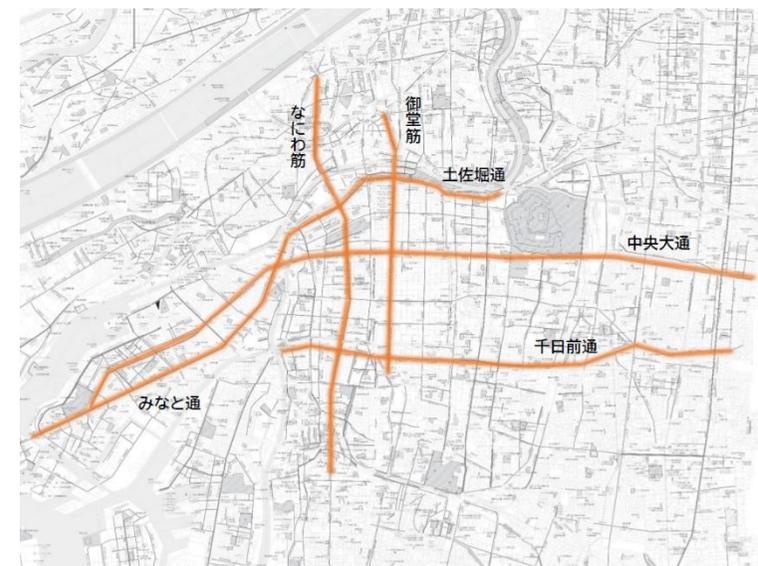
✓万博関連事業実施エリア



大阪市景観計画（令和6年4月施行）



新・大阪市みどりの基本計画（平成25年）



万博関連事業実施エリア

2 街路樹・公園樹マネジメント戦略の基本的な考え方（素案）

基本方針② 健全な樹木の保全育成をめざした樹形及び樹木管理の考え方を設定

公園樹

- ✓ 樹形を適正に保持することは、個々の樹木の健全性や美観を維持するため、公園の空間特性や樹種に応じた剪定管理を行うことで樹形を適正化します。

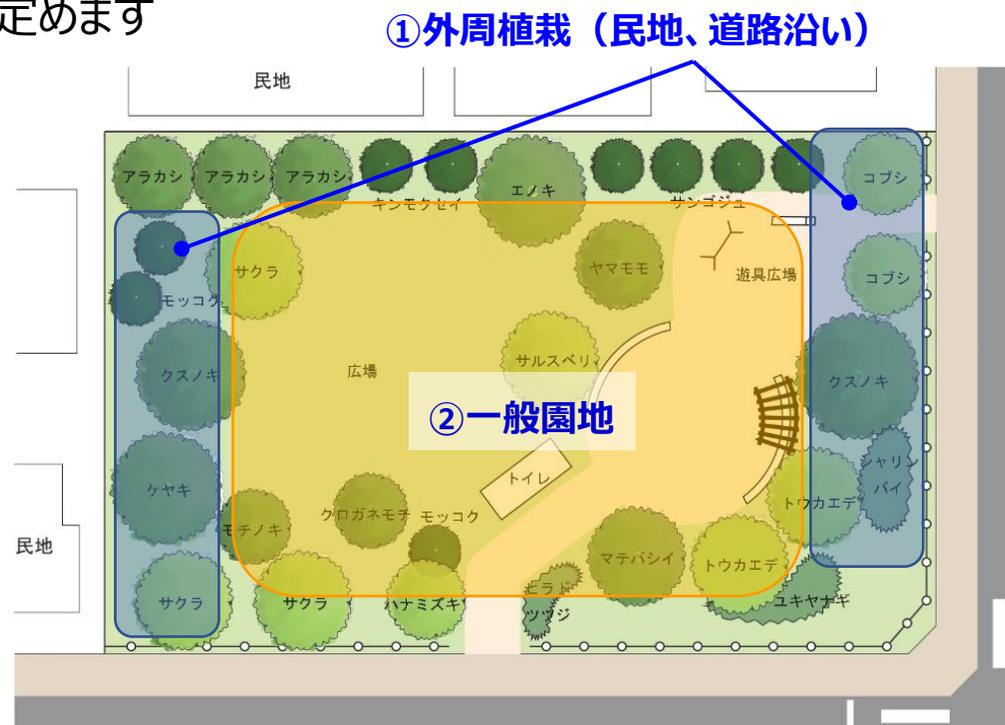
(1) 公園内の植栽場所や周辺環境に応じた樹木管理

場所ごとの剪定方針

- 植栽場所によって植栽目的が異なることから、周辺環境も踏まえつつ、公園内の植栽場所に応じた、剪定方針を定めます

樹木管理の考え方

- 本市公園の空間構成や周辺状況、植栽されている樹種を踏まえ、樹木の植栽箇所別（2区分）で、健全な樹木の育成に必要な、剪定頻度を整理



植栽箇所別 2区分イメージ図

2 街路樹・公園樹マネジメント戦略の基本的な考え方（素案）

基本方針② 健全な樹木の保全育成をめざした樹形及び樹木管理の考え方を設定

公園樹

（1）公園内の植栽場所や周辺環境に応じた樹木管理

樹木管理の考え方

【区分ごとの考え方】

①外周植栽（道路沿い、民地沿い等）

- ✓ 他エリア同様、樹木を健全に育成する視点から剪定を実施
- ✓ さらに、公園外周沿いの支障となる枝葉の除去を景観にも配慮しながら細やかな剪定を実施

②一般園地（園路・通路沿い、遊び場・広場等）

- ✓ 外周植栽に比べ、植栽環境に制約がないことから、原則、自然樹形で育成し、緑陰や木漏れ日の下、安全に休憩、寛げるよう、樹冠を拡大。シンボルとなる樹木も自然樹形で大きく育て、保全育成
⇒**定期的な骨格剪定を実施することで自然樹形に近い形で保全育成**

2 街路樹・公園樹マネジメント戦略の基本的な考え方（素案）

基本方針② 健全な樹木の保全育成をめざした樹形及び樹木管理の考え方を設定

公園樹

- ✓ 多くの人が集まる公園では、個々の樹木の健全性や美観の維持だけでなく、周辺環境やまちなみとの調和を図り、**公園を訪れる多くの人々が緑の魅力を感じ、居心地よく快適に利用できるよう樹木のもつ機能を最大限発揮する樹木管理を行う必要があります。**
- ✓ そのため、**多様な施設を備え、多くの人々が利用する近隣公園以上の公園**において、**骨格剪定以外に不要枝の剪定が必要**となります。

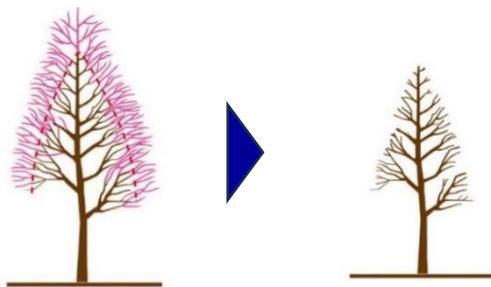
(2) 樹木管理の考え方

街路樹と同様、剪定手法や剪定頻度を見直すことで、樹木の持つ機能・効用を最大限に発揮させる

《剪定のイメージ》

①骨格剪定

- 樹木の大きさをコントロールする剪定で、植栽環境にあわせた樹形をつくる事が可能
- 樹勢を弱らせる強剪定によらない、樹木の健全な育成に寄与



枝の伸長や、植栽環境に応じて、適切な頻度で定期的に剪定を実施

②不要枝剪定

- 通行支障枝や、樹木の生育上不要な枝を細やかに剪定
- 健全な樹木の育成に加え、見通しの確保や景観・快適性の向上に寄与
- 公園外周部において、周辺環境やまちなみとの調和を図る



景観向上や緑陰形成をめざし、骨格剪定に加え、内部の枝葉を透かす不要枝剪定を実施

2 街路樹・公園樹マネジメント戦略の基本的な考え方（素案）

基本方針② 健全な樹木の保全育成をめざした樹形及び樹木管理の考え方を設定

公園樹

(2) 樹木管理の考え方

緑の基本計画の基本理念や将来像を踏まえ、
多くの人々が緑の魅力を感じ、居心地よく快適に利用できる都市空間の形成

多くの人々が訪れる公園で

- 公園樹の樹形を整え樹木景観を向上
- 緑陰の形成による快適性と居心地を向上

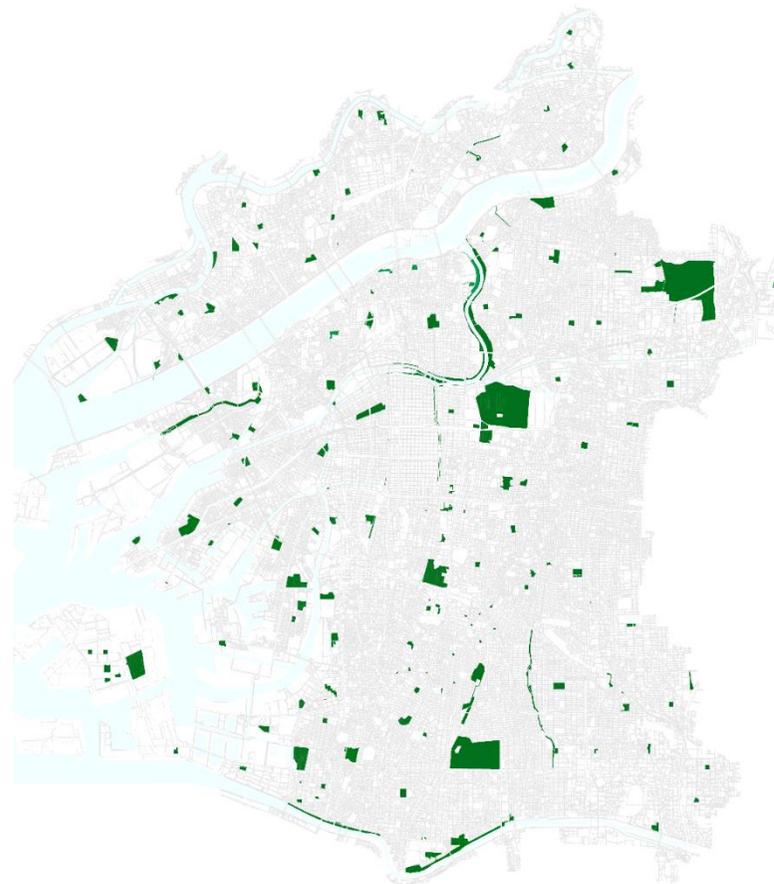


市民一人ひとりが健康で心豊かに暮らせる
QOL（生活の質）の向上

参考：種別ごとの公園配置

都市を代表する都市基幹公園

地域を代表する地区公園、近隣公園



2 街路樹・公園樹マネジメント戦略の基本的な考え方（素案）

基本方針③ 着実なPDCAによる持続的な維持管理（樹木管理のDX）

街路樹・公園樹共通

- ✓ 樹木の維持管理を持続的に推進するためには、維持管理の計画・評価・改善を行う計画などPDCAを回すマネジメントサイクルがかかせません。
- ✓ また、樹木は生き物であることから、科学的に十分に解明されていない部分もあるだけでなく、気候変動などの外的影響も受けるため、維持管理の結果に関する予測には不確実性が伴います。そのため、維持管理計画を立案する際には、これまで蓄積された科学的知見などをもとにした仮説が必要とされ、事業を実施したあとはモニタリングにより仮説を検証し、新たに明らかになった事実に応じて、管理手法を再検討し必要な場合に修正する
「順応的管理」の適用も不可欠になります。
- ✓ さらに、限られた予算や人材の中で持続的かつ質の高い樹木管理を行うためには、業務の作業効率化、外部の専門家も含めた体制の見直し等が必要になります。
- ✓ そのため、樹木の管理状態の適切な把握に努め、蓄積されたデータにもとづき、より効率的・効果的なタイミングで維持管理を行うことが求められます。

（次ページへ続く）

2 街路樹・公園樹マネジメント戦略の基本的な考え方（素案）

基本方針③ 着実なPDCAによる持続的な維持管理（樹木管理のDX）

街路樹・公園樹共通

（前ページからの続き）

- ✓ また、官民が一丸となって、樹木管理におけるDXを推進し、新しい技術も活用することで、持続的な維持管理を実現します。

○具体的な取組み

- （1）定期的な点検、健全度調査のデータに基づく管理
- （2）樹木管理に係るマニュアル、ガイドラインの策定
- （3）効率的で質の高い維持管理に向けた人材育成及び管理体制の検討
- （4）改善と評価

2 街路樹・公園樹マネジメント戦略の基本的な考え方（素案）

基本方針④ 樹木の保全育成における多様な主体との連携と情報発信（樹木管理のDX）

街路樹・公園樹共通

- ✓ 良好な街路樹・公園樹景観をブランド化し、多様なツールによる積極的な情報提供や魅力発信により、街路樹・公園樹への関心を高めることが求められます。
- ✓ また、街路樹や公園樹は、その地域に住む人や働く人にとって最も身近なみどりであり、親しみと誇りを持てる並木やシンボルツリーを形成していくために、地域の住民や事業者が公園樹、街路樹の維持管理に関わるることができる取り組みを充実させ、より一層の連携を図る必要があります。

○具体的な取組み

- (1) 維持管理の取組みに関する市民への分かりやすい情報発信
- (2) 樹木への愛着や維持管理への理解促進につながる樹木の魅力や価値の見える化
- (3) 地域との連携推進

例) 落葉清掃、水やり、病害虫等の異常発生連絡、維持管理への寄付、樹木に係る講習会など

(付録 1) 作業検討部会でのご意見

ご意見

第3回部会

社会背景や課題の整理

- 樹木管理における時代ニーズの変化や、これからの方向性とのギャップを課題として整理するなど、市民に理解してもらえるように再整理が必要。

目標樹形の設定

- 街路樹など植栽空間に制約があり限界があるので、目標樹形に加え、目標樹高を明記するなどして、樹木を適正な大きさに育成していくことを分かりやすくすべき。

アセットマネジメントの考え方

- 基本的方向性や管理目標など大きな方向性の部分で、最初に目標を決め、それにフィットさせるような樹木の樹種と維持管理方法を設定し、長く持続させるようなアセットマネジメントの考え方を示すべき。

公園樹の基本方針の整理

- 公園樹の基本方針整理にあたっては、公園種別で整理するなど、もう少し丁寧な課題整理とそれに応じた方針などの整理が必要。

樹種の選定

- 植栽する樹種の選定にあたっての考え方は再整理が必要。

樹木管理の専門家活用

- 樹木管理には行政だけでなく外部の専門家の活用も検討すべき。

アダプティブ
マネジメントの考え方

- 樹木は生き物であり、やってみないとわからない不確実性をもつため、順応的管理の考え方を組み込むべき。

多様な主体との連携

- 多様な主体との連携は、記載できる範囲で具体的なイメージがあるとよい。

(付録 1) 作業検討部会でのご意見

ご意見

第5回部会

街路樹の樹種選定 経過	<ul style="list-style-type: none">• H15以降、植栽本数1位のシラカシは早期緑化にも利用されるので、早期緑化樹は減少傾向程度の記載とした方が良い。• 後半の樹種選定の考え方の設定につながるように、これまで過酷な環境に対応できる樹種を選んできたことがわかるように前段で明示しておくが良い。
社会情勢の変化	<ul style="list-style-type: none">• 緑を増やす政策がある中、植栽空間が適さなくなっているとの結論がわかりにくい。
健全な樹木の保全 育成イメージ	<ul style="list-style-type: none">• 植栽基盤整備の重要性を、全体の方向性の中で示す方が良い。例えば、植栽基盤イメージ図で、植栽枡を深く大きくしておくことで、健全な樹木の育成のイメージが伝わりやすい。
樹木の延焼防止 機能	<ul style="list-style-type: none">• 従来から、樹木のもつ延焼防止機能が取り上げられてきたが、公園というオープンスペースが一定の延焼防止機能に寄与するとの考え方もあるので、資料のとおり、あえて、公園樹で延焼防止機能は明示しなくてよいかもしれない。
地域連携の推進	<ul style="list-style-type: none">• 講習会の実施は、公的な緑を育むことにつながるが、それをきっかけに、プライベート空間の緑にも意識がもつと考えられる。公園は公共にみえるが、私的に利用するとより良くなる。

第5・6回部会

樹木の緑陰形成 機能の重要性	<ul style="list-style-type: none">• 地球温暖化、ウェルビーイング、人間中心のパブリックスペースの話が、ここ10～20年で大きく動いている。• こうした中で、樹木の緑陰形成が重要であることを示した上で、緑陰形成のため、樹木を適正なところまで大きく育てる必要があると整理すべき。
-------------------	---

(付録2) 公園種別ごとの植栽例と樹木管理の考え方

■都市公園の種別など

都市公園は、設置目的や誘致圏域、規模ごとに公園の種別が設定されていますが、都市基幹公園や大規模公園、特殊公園に加え、住区基幹公園の地区公園や近隣公園では、多様な機能を備え、それらを支える施設が整備され、多くの人に利用される公園に位置づけられている。

〈公園種別について〉

住区基幹公園 ⇒日常生活圏を単位として設置される公園。本市では、962公園あり、全体で約97%ある。

都市基幹公園 ⇒1つの市町村の区域を単位として設置される公園。本市では、8公園あり、全体約0.8%ある。

大規模公園 ⇒1つの市町村を超えた広域圏を単位として設置される。本市では、鶴見緑地のみ。

特殊公園 ⇒歴史公園、動植物公園、風致公園など。本市では、5公園あり、全体で約0.5%ある。

その他に、**緑道、都市緑地**が16公園あり、全体で約1.6%ある。

〈住区基幹公園について〉 ⇒設置目的や誘致圏別に3種類の公園がある。

公園種別	街区公園	近隣公園	地区公園
設置目的、誘致圏域、標準規模	主に街区内に居住する者の利用に供することを目的とする公園で、1箇所当たり面積0.25haを標準として配置する	主として近隣に居住する者の利用に供することを目的とする公園で、1箇所当たり面積2haを標準として配置する	主として徒歩圏域内に居住する者の利用に供することを目的とする公園で、1箇所面積4haを標準として配置する

(付録2) 公園種別ごとの植栽例と樹木管理の考え方

■公園種別ごとの機能と目的に応じた植栽例

〈街区公園〉

住民に最も身近な公園であり、非常時には防災機能、平常時には児童の遊び場、高齢者の運動、憩い・休息の場など、地域住民の日常的な公園利用の基本となる機能を有している。

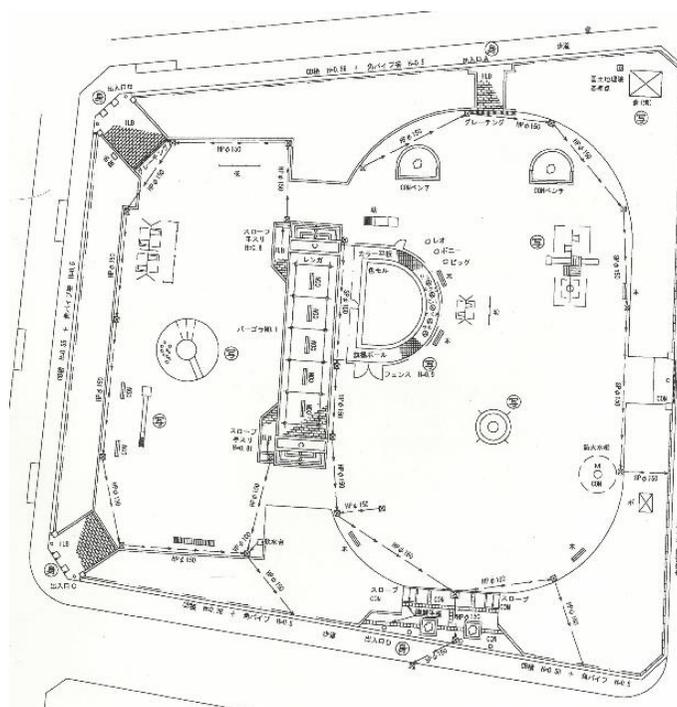
⇒近隣住民の憩いの場や遊びの場の場として利用されている。



遊び場下の木陰スペース



出入口の修景



園路の緑陰



災害時に防災機能を有する外周樹木

(付録2) 公園種別ごとの植栽例と樹木管理の考え方

■公園種別ごとの機能と目的に応じた植栽例

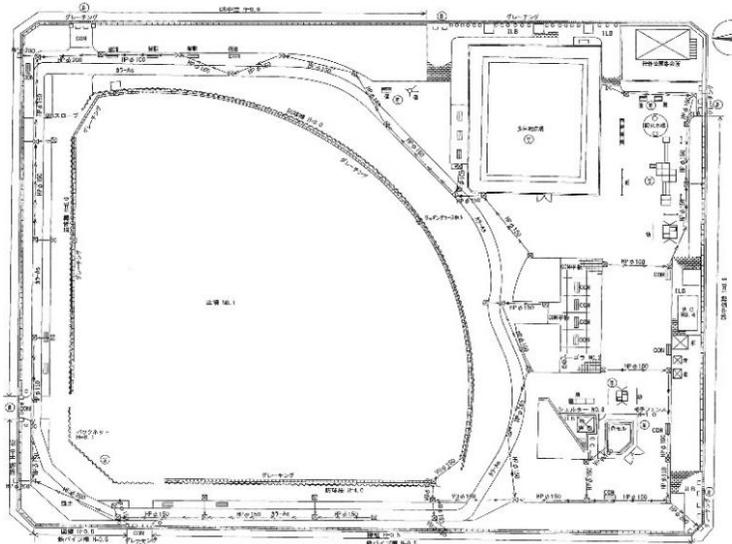
〈近隣公園〉

街区公園の基本的な機能に加え、小学校区内の中心的な公園としての幅広い利用を想定し、球技等や地域のイベントなど運動、コミュニティ形成等の機能を有している。

⇒地域の活動の拠点として利用されている。



遊び場下の木陰スペース



園路の緑陰や公園内の修景



出入口付近の修景



運動場外周の修景



災害時に防災機能を有する外周樹木

(付録2) 公園種別ごとの植栽例と樹木管理の考え方

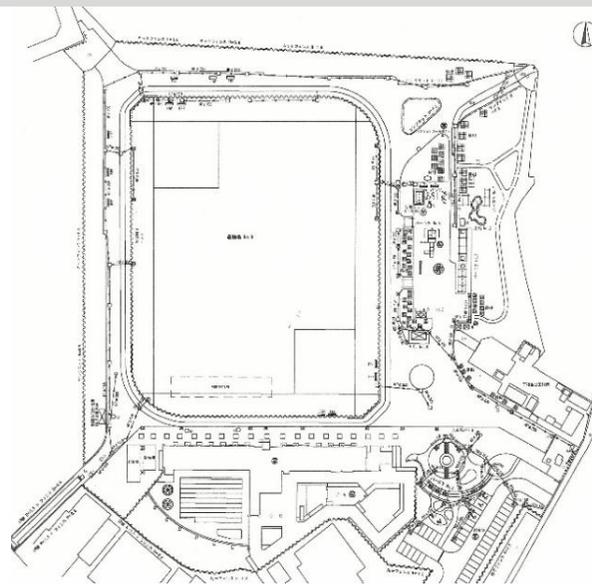
■公園種別ごとの機能と目的に応じた植栽例

〈地区公園〉

街区公園の基本的な機能に加え、複数の小学校区をまたぐ、周辺地域の身近なスポーツを中心とした利用を想定し、有料運動場、野球場、テニスコートの運動機能だけでなく、地域のイベントの利用を想定した広場など、コミュニティ形成等の機能を有している。⇒**地域の活動の拠点として利用されている。**



園内の並木道



災害時に防災機能を有する外周樹木



遊び場下の木陰スペース



運動場外周の修景



出入り口付近の修景

(付録2) 公園種別ごとの植栽例と樹木管理の考え方

■公園種別ごとの機能と目的に応じた植栽例

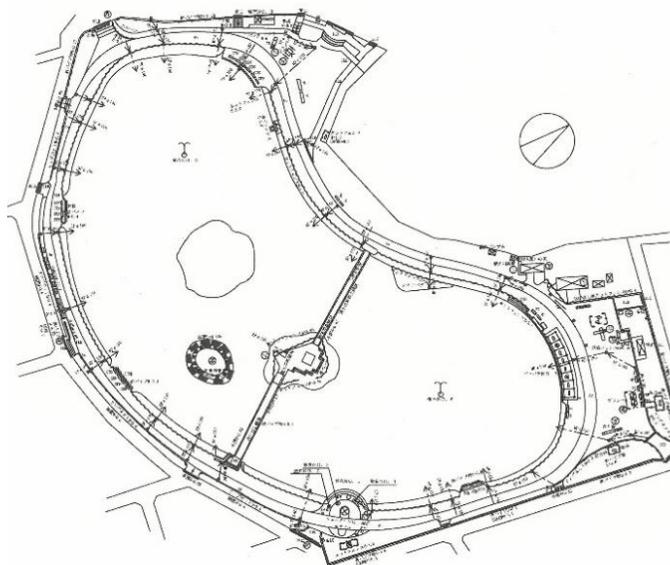
〈地区公園〉

また、池や川、樹林などの貴重な自然環境が残っている地域では、それらの資源を最大限保全・活用した整備とするなど景観、環境保全機能も充実させる必要がある。

⇒地域の活動の拠点として利用されるだけでなく、地域の魅力や価値を高める資源も多くある



池周辺の修景



遊び場下の木陰スペース



公園を特徴づけるシンボルツリー



園路の緑陰



歴史資源と一体となった樹木

(付録2) 公園種別ごとの植栽例と樹木管理の考え方

■ 樹木管理の考え方

公園の規模が大きくなればなるほど植栽目的も多様になることから、公園の設置目的や公園規模ごとに具体的に以下のような管理が求められます。なお、都市基幹公園や大規模公園などでも、住区基幹公園と同様の機能（遊戯、観賞、憩い、散策、運動など）が整備され、同様の植栽目的をもつものもあることから、地区公園で求められる管理の考え方も参考にしながら樹木管理を行う必要があります。

公園の種類	求められる管理の考え方
日常的に利用される身近な公園 (街区公園)	<ul style="list-style-type: none">日常的に利用される公園として、主に遊び場や憩いの場、休息の場として利用されることが多いことから、<u>公園内部の植栽は子どもから高齢者まで快適に利用できるような適度な緑陰の確保</u>。また、公園外周に植えられている植栽は、災害時等の防災的な役割や周辺地域への修景的な要素をもつことから、<u>緑量や樹冠を確保しつつ、民地や道路など周辺施設と競合しないよう周辺環境との調和</u>。
地域を代表し、活動拠点となる公園 (近隣公園、地区公園)	<ul style="list-style-type: none">球技等や地域のイベントなどとして利用される広場や運動場の施設の廻りには、樹木が植栽される場合が多く、園内の主要な景観構成要素となっている。地域の活動拠点にふさわしい<u>魅力ある公園として、これらの樹木はできる限り自然樹形で大きく育成</u>。また、花の咲く樹木は、開花や結実等を考慮した管理。また、<u>人が利用できる林がある場合もあることから、これらの場所では快適に利用できるような適度な緑陰を確保</u>。公園の顔となる出入口や人が多く利用する園路沿い、広場などには、<u>景観木や鑑賞木、並木など修景要素の高い樹木が多く植えられており、地域のシンボル</u>となっています。<u>地域の活動拠点にふさわしい魅力ある公園として、これらの樹木はできる限り自然樹形で大きく育成</u>。地区公園では、池沿いや川沿いの樹木や大規模な樹林など、その土地の風土の中で育まれた固有の景観がある。地域の活動拠点にふさわしい魅力ある公園として、<u>これらの樹木もできる限り自然樹形を維持するためのきめ細かな管理</u>が求められる。